



ハッサン・バイエフを呼ぶ会

Committee for Invitation of Dr. Khassan BAIEV

共同代表:林克明(フリージャーナリスト)・岡田一男(映像作家)

連絡先:112-0001東京都文京区白山2-31-2-101 岡田一男気付

baiev@zau.att.ne.jp <http://tokyocinema.net/baiev.htm>

#2-101, 31 Hakusan-2, Tokyo-112-0001 JAPAN, phn: +813-4500-8535 fax: +813-3811-4576, baiev@zau.att.ne.jp

プレスリリース ハッサン・バイエフ医師再招聘について

2008.1.16.

2006年晩秋の2週間、戦争下のチェチェンで、民間医師として敵味方を区別することなく多くの人命を救ったチェチェン人外科医ハッサン・バイエフ医師(著書に「誓い The OATH チェチェンの戦火を生きた一人の医師の物語」(アスペクト刊)が初来日を果たし、各地で講演をしました。多くの方々が、バイエフ医師に関心を寄せ、共にチェチェンの人びと、とりわけ未来を担う子どもたちが辛酸を嘗めさせられている現状に心を痛めて下さいました。

それから1年あまり、バイエフ医師は、3回にわたり故郷のチェチェンに戻って、荒廃した医療環境をどう立て直すか、自分自身が10年近いブランクをどう克服して、医療現場、手術台の前に復帰できるかを真剣に検討してきました。チェチェンでは小児の先天奇形とりわけ口蓋裂が頻発しており、特に昨秋の訪問では、バイエフ医師自らも数件の手術を行っています。

ハッサン・バイエフ医師は、昨年(2007)の訪日の際、日本の先進的な形成外科医術への知見を深め、実際に学びたいと強く希望し、多くの関係者が、可能性を探りました。最終的に、埼玉医科大学総合医療センター形成外科部門が、2008年2-3月の2ヶ月間、受け入れて下さることになりました。これを受けて、ハッサン・バイエフを呼ぶ会は、必要な旅費、滞在費など、120万円の募金活動をはじめています。

今回の招聘は、日本の進んだ医療現場を学ぶことが主眼となりますが、バイエフ医師は、週末土日を中心に講演活動も積極的に行って、チェチェンの現状を報告し、多くの人びとと交流することに意欲を燃やしております。今月、バイエフ医師は滞在先のボストンから、チェチェン共和国アルハン・カラ村に旅立ちました。1月31日の成田到着までに、南シベリアの彼の母校、クラスノヤルスク医科大学にも立ち寄り、ここでもロシアでの形成外科医復帰の道を探ります。従って、私たちは、非常にホットな、チェチェンの今の状況を、ハッサン・バイエフ医師から聞けることとなります。

つきましては、日本到着の1月31日午後3時、記者会見を開催して、報道関係者を中心に関心をお持ちの皆さまに、ご報告と質疑応答の会を持ちたく、お知らせをいたします。

記

日時: 1月31日 15:00 - 16:30

場所: 文京シビックセンター 4F シルバーセンター会議室B(定員35名)

申込: baiev@zau.att.ne.jp

緊急時連絡: 090-4297-0180(岡田)

ハッサン・バイエフを呼ぶ会

共同代表 林 克明・岡田 一男

東京での講演会は、2月24日 18:00-21:00 文京区民センター2A会議室(定員250名先着順申込不要)参加費¥1,000で予定しております。現在、いわき、仙台、水戸、大阪、札幌、京都その他でも開催が検討されています。

バイエフ医師招聘のための募金に、暖かいご支援をお寄せ下さいますよう、お願いいたします。

バイエフ招聘資金の募金:郵便振替:00180-6-261048

チェチェン連絡会議の口座をお借りしています。通信欄にバイエフと明記して下さい。

ハッサン・バイエフを呼ぶ会は、恒常的支援活動を行うため、チェチェンの子どもたち日本委員会(JCCC)に近々、発展的に組織替えます。